

1972・初秋号

# 成蹊会誌

# 36号

## オナガ

オナガは“武蔵野の鳥”といわれる。別の名を“関東オナガ”ともいい、もとは関東平野にかぎってすんでいた。武蔵野には林が多い。かれらは、それらの林を二、三十羽の群れをなして、つきからつきへと渡っていく。林の切れめにくると、しばらくあたりをうかがっていて、はじめに、仲間のうちの二、三羽が、ふわふわとつぎの林を目かけて飛び出していく。危険がないとわかると、残りもあとに続き、その用心深さと頭のよさはカラスなみである。

尾長鳥木依ひ飛ぶは嘗て見き川越えて飛ぶ羽音ぞ荒き 半田良平

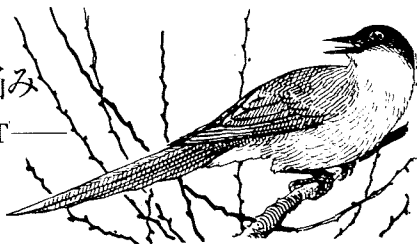
オナガは本州、四国、九州の平野部、とくに武蔵野を中心に、埼玉県下にかけて多くみられ、北海道にはいない。その分布のしかたがおもしろく、まず東北本線では、同線にそって青森あたりまで達している。上越線では、新潟まで断続的に生息し、信越線では、春に碓氷峠を越え

て、軽井沢で夏をすごし、冬になるとふたたび峠を下ってくる。鳥のなかの軽井沢族で、去る二十五年ごろには浅間高原あたりまでしかいなかったが、さいきんでは、善光寺平を越えて、柏原あたりまで足をのばしているよう。中央線の場合は関東平野のつきるところ、高尾あたりまでは二、三十羽ぐらいずつのグループをつくって生活しているが、小仏峠を越すと姿がみられなくなり、それが、甲府盆地と富士山ろくの山中湖畔には、わずかながら“開拓者”らしい一団が移りすんでいる。しかし、それから先は、はるか松本平まで姿をみるこがたない。さいごに東海道沿線では、これは帯状をなして、山陽本線は西の端まで達している。九州でもさいきん福岡県の一部にいたることがわかり、近いうちには、もっと先まで進出するものが現われそうである。といっても、かれらは、もちろん汽車に乗って移住したのではない。結果的には、汽車のほうがオナガのすむ平地から平地へと線路をのぼっていったままでのことで、かれらが途中で汽車に追い抜かれただけのことで

ある。いいかえると、こうした日本の平野部には松林がつきもので、オナガは主としてこの松林にすむことが多い。とくに甲府盆地や山中湖畔、東北本線沿線ではこの関係がはっきりよみとれる。オナガはしゃれ者である。頭の上部が黒く、尾の先が白いのをぞくと、全身があわい青色をしていて、尾が三十七センチぐらいもあり、からだよりも長い。みるからにスマートなてたちで、地上におり立つときには、長い尾を扇のように大きく開き、速度をおとしてふわりと地面に着陸する。動きがまめめしく、江戸っ子を思わせる。ある大学教授で、

## しゃれ者に悪声の悩み

——たしなみはアリのDDT——



この鳥をくわしく観察した人の発見では、オナガは奇妙な習性を持っている。アリの群れをみつけると、半狂乱になってくちばしてこれをくちやくちやくにし、羽やしっぽをなすりつけるというが、横になったり、ひっくりかえったり、人間がみるといとも珍妙とか。原因はよくわかっていないが、鳥が、よく水を浴びたり砂を浴びたりして羽虫を退治するところから、オナガの場合は蟻酸でこれを駆除しているのかもしれないという。そうとすれば、アリはDDTで、アリ浴びは、しゃれ者のかくれた苦勞というところ。もっとも、オナガにはいまひとつ泣きどころがある。ずばりいうと悪声で、人によっては「ゲー、ゲー」ないし「グエー、グエー」さらに「ギャー、ギャー」ともきこえるという。一面、なかなか気の強いところがあるので、よくエサ台にくるスズメをいじめることがあって、そのとき、このギャー、ギャー声かひときわにくらしく耳をつく。美人に美声の持ち主が少ないのと似ているが、かれがカラスの一族であってみればしかたのないことである。

読売新聞社刊(鳥の歳時記)より

めて大変感激深いものがありました。武蔵野の大自然の中で青少年期を過ごさせていただいた事、思い出深い諸行事、諸先生、先輩、同輩、後輩諸氏のこと大変よき時代であったと今更乍ら感謝した次第です。

吉田 洋(ブ3) 大阪歯科大

成蹊アレメ修了約二十年の才月が経過しました。大阪歯科大学を卒業後を顧りみても十五年、実に速いものです。東京での学生時代を非常になつかしく思い出します。

若松舜児(政経14) 中津木材相互市場

今年はおまわり出廻らず、のんびりと過しております。本業の外に、昨年始めた萩焼の窯元もお蔭様で順調で、十月中旬日本橋三越にて個展を開く段取りとなりました。

これから海のシーズンに入りますので、二十フィートのモーターボートクルザーに乗り替え、明日新艇が入って来る予定です。お立寄りの際は御連絡下されば御案内します。

脇村 孝三郎(旧高9) 林業

今春長女が跡見女子大卒業、目下家で花嫁修業中、妹の方は上智の英文三年で級友巽豊彦先生のご厄介になっている。これも成蹊のおかげだと思う。一人息子は高校二年ぼつぼつ大学入試の準備に入る。娘の結婚から息子の入試と、之から親父の苦難の年代が始まるのだろう。まだまだ楽はできない訳だ。幸い相変らず元気で適当に(?)飲んで適当に働いている。田舎のことと雑用が多く結構忙しい。この秋はクラスの第二回紀州ツアー(田辺、道成寺、高野山)を迎えるのと楽しみにしている。

渡辺 一美(専5) 明星大学

私は相変らず児玉先生のもとに明星大学の就職を担当して居ましたがどうか方々に片附きました。何と言っても一番力になるのは成蹊関係です。殊に今年是不況で中々大変ですが三菱、日立関係で懸命です。ほんとうに有難い事があります。

渡辺 恭光(政経6) 渡辺経済研究所

株式投資コンサルタント、委託引受、不動産投資相談、十年前不動産部のお借り手のない貸店舗に卓球台をおいたのが始りで、今では国分寺市体協理事、卓球連盟理事長、日本卓球協会公認三級審判員と横道に進み、今流行のママサングループ(計一〇〇人位)に卓球を教へる。昔のミスに囲まれ先生、先生と呼ばれまんざらでもなし。

渡辺 千春(旧高7) 府中医王病院

昭和四十七年度は全学部保健体育の講義を引き受けたいそがして。昨年十月五十肩にかかり、まだ痛んで不自由しています。七姉もやつれました。全く思っても見ぬやつかいな病気もあるものよと、あきれました。呵々。

物故会員

- (昭和四十七年三月三十一日)
- 三上 和一(特別会員) 昭和四十七年四月九日
  - 神谷 正男(特別会員) 昭和四十七年六月十八日
  - 雨宮 和郎(工学部4) 昭和四十七年七月十五日
  - 岩崎 信介(中学5) 昭和四十七年七月十四日
  - 中川 宏信(政経1) 昭和四十七年七月二十一日
  - 野村 富夫(政経4) 昭和四十七年八月四日
  - 小池 史(旧高昭11) 昭和四十六年九月十日(追加)
  - 安井 忠之(政経17) 昭和四十六年十月三十一日(追加)

成蹊学園近況

一 学事報告

大学は、従来の大学院工学研究科に「情報処理専攻」を、法学研究科は「法学政治学研究科に改め、政治学専攻」を、文学研究科に「西洋文化専攻」を各々増設すること、新たに「経営学研究科、経営学専攻」の設置を申請し、その認可を得た。

小学校は学級定員を漸減し、児童一人一人に行き届いた指導を行うとともに、新校舎学習施設(グループ学習スペース)や、教育機器の活用による指導をもいれ、隔週五日制の実をあげた。

中学校においては、特に二年の英語科の学習に重点をおき、二クラスを三つに分割し、少数学習を実施した。

高等学校は、昭和四十八年度の教科課程改定に対し、委員会を設けて、その研究にあつた。

施設関係については、大学体育科倉庫・波左間寮従業員宿舍・馬術部汚物処理所並に馬糧庫の新築、小学校アトリエ機械室を増築(延約一九九・)、また陸上競技場の整備、大学六号館・十一号館及び西合宿所が改造され、西部室のシャワー給湯設備の改修が行われた。

本学園は、昭和四十七年に創立六十周年を迎えるが、いよいよ伝統ある教育のなかに新しい躍進をつづけている。

二 組織

□学校法人成蹊学園。印卒業生

- 理事長 小笠原光雄 三菱銀行相談役
- 専務理事 丹羽 孝三
- 理事 朝倉 孝吉 成蹊大学経済学部長
- 石井 照久 成蹊大学長
- 岩崎 忠雄 三菱モンサント化成社長
- 岩崎 寛弥 三菱銀行
- 榎本 信助 成蹊大学工学部部長
- 岡野保次郎 三菱重工工業相談役
- 賀集 益蔵 三菱レイヨン相談役
- 笠原 逸二 極東貿易相談役
- 金沢 良雄 成蹊大学法学部部長
- 栗原美能留 成蹊中・高校長
- 河野 義克 東京市政調査会理事長
- 生野 専吉 三井信託銀行社長
- 瀬木 庸介 博報堂社長
- 高杉 晋一 三菱電機相談役
- 高山 英華 東京大学名誉教授
- 野村 純三 成蹊小学校長
- 福享 正治 成蹊大学文学部部長
- 堀田 庄三 住友銀行会長
- 水沢 謙三 東京海上火災相談役
- 宗像 英二 日本原子力研究所理事長

学 校	入学志願者	受験者数	入学者数 (A)	内部進学	入学者数計
				入学者数 (B)	(A+B)
大学院工学部研究科 (修士)	4	4	2	17	19
“ (博士)	0	0	0	1	1
“ 経済学研究科 (修士)	5	4	1	7	8
“ (博士)	0	0	0	0	0
“ 法学政治学研究科 (修士)	11	9	1	5	6
“ “ (博士)	0	0	0	0	0
“ 文学研究科 (修士)	2	2	0	11	11
“ 経営学研究科 (修士)	2	2	0	0	0
経済学部	2203	2085	373	92	465
工学部	1661	1516	252	27	279
文学部	2797	2499	411	35	446
法学部	2499	2291	266	54	320
高等学校	539	526	127	254	381
中学校	494	486	140	132	272
小学校	361	335	120	—	120

四 昭和四十七年度入学生 (昭和四十七年五月一日現在)

近頃各地で地番の変更や電話局番の新設が行われております。  
また現住所や勤務先の役職など異動があった場合は成蹊会本部まで一報願います。  
〒180 武蔵野市吉祥寺北町三ノ三ノ一

会 員 各 位

成蹊学園  
 総務部 長 国分 勇雄  
 経理部 長 鷺山 要  
 成蹊大学 学部長 石井 照久  
 経済学部 学部長 朝倉 孝吉  
 工学部 学部長 榎本 信助  
 文学部 学部長 福与 正治  
 法学部 学部長 金沢 良雄  
 事務部 長 鷺山 要  
 成蹊高等学校 校長 栗原美能留  
 成蹊中学校 校長 栗原美能留  
 成蹊小学校 校長 野村 純三

監事  
 村上 藤太 王子製紙常任監査役  
 吉野 栄一 東京精機工業社長  
 池田 謙蔵 三菱信託銀行相談役  
 牧野亀治郎 明治生命保険相談役

( ) は女子の内数

研究科 学部	大学院		学 部				計
	工学研究科		経済学部	工学部	文学部	法学部	
	博士	修士					
進 学	0	2	13(1)	16(1)	8(6)	10	49(8)
他 大 学	0	0	2	9	0	0	11(0)
研 究 生	0	0	12	1	9(6)	4	26(6)
留 学	0	0	0	0	0	0	0
小 計	0	2	27(1)	26(1)	17(12)	14	86(14)
就 職 者	3	18	381(7)	204(2)	135(101)	246(9)	987(119)
就 職 率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
小 計	3	18	381(7)	204(2)	135(101)	246(9)	987(119)
そ の 他	0	1	43	3(1)	10(3)	19(2)	76(6)
家 業 手 伝	0	0	7(7)	0	152(152)	7(7)	166(166)
家 事 手 伝	0	0	22	5	18	8	53
そ の 他	0	1	72(7)	8(1)	180(155)	34(9)	295(172)
小 計	0	1	72(7)	8(1)	180(155)	34(9)	295(172)
計	3	21	480(15)	238(4)	332(268)	294(18)	1,368(305)

五 大学卒業生の就職・進学 (昭和四十七年三月末日現在)

所 属	教 職 員 数	在 学 生 数		
		男	女	計
大 学	95	1,656 (6)	64	1,720 (6)
工 学 部	149	1,029 (42)	29	1,058 (42)
文 学 部	122	453 (1)	1,099 (3)	1,552 (4)
法 学 部	89	1,303 (8)	108 (1)	1,411 (9)
小 計	455	4,441 (57)	1,300 (4)	5,741 (61)
高 等 定 校	86	747	306	1,053
中 学 校	57	546	273	819
小 学 校	29	483	276	759
特 別 学 級	15	8	10	18
小 計	187	1,784	865	2,649
事 務 ・ 技 術 ・ 労 務 職 員	213			
合 計	855	6,225 (57)	2,165 (4)	8,390 (61)

三 教職員及び在学生数 (昭和四十七年三月現在)

（ ）は女子の内数

大学名	入学数	大学名	入学数
成蹊大学	94 (8)	昭和大学	3 (1)
経済学部	28	北里大学	1 (1)
工学部	35 (24)	日本歯科大学	1
文法	56 (11)	東京歯科大学	1 (1)
東京大学	1	成城大学	2
一橋大学	2	明星大学	1
東工大	1	東京農業大学	1
お茶の水女子大	1 (1)	東京電機大学	1
早稲田大	10 (3)	酪農学園大学	1
国際基督教大	1 (1)	国立音楽大学	1 (1)
上智大	2 (2)	東邦大学	1 (1)
中央大	5 (4)	東京女子医科大学	1 (1)
大本	1	東京薬科大学	2 (2)
理科	2	津田塾大	1 (1)
大東	1		

〔注〕成蹊学園近況の資料は昭和四十六年度成蹊学園学事報告書（成蹊学園学務部編）によりました。

### 成蹊会近況

昭和四十七年二月一日  
昭和四十七年七月三十一日

#### 一 会議

##### ○理事会

- 一、第二回理事会（三月六日・成蹊クラブ）
  - (一) 学校法人成蹊学園評議員選任の件
  - (二) 昭和四十七年度事業計画書及び収支予算案承認の件
  - (三) 第三回理事会（五月十一日・成蹊クラブ）
- 二、昭和四十六年度事業報告書及び収支決算書並びに剰余金処  
分案承認の件

(一) 財産目録（昭和四十七年三月三十一日現在）承認の件

(二) 謝恩顕彰会開催の件

(三) 特別会員（教職員）推薦の件

##### ○会員総会

一、第十七回会員総会（五月二十六日・成蹊クラブ）

(一) 昭和四十六年度事業報告書及び収支決算書並びに剰余金処  
分案承認の件

(二) 財産目録（昭和四十七年三月三十一日現在）承認の件

(三) 昭和四十七年度事業計画書及び収支予算案承認の件

##### ○同窓会

一、池袋同窓会総会（二月十九日・巣鴨養和会）

- 二、桃蔭会（実務学校）総会（四月十九日・成蹊クラブ）
- 三、やよい会（女学校）総会（五月二十二日・逗子マリーナ）

##### ○特別委員会

- 一、成蹊クラブ運営委員会（五月二十九日・成蹊クラブ）
- 二、育英奨学委員会（六月二日・成蹊クラブ）
- 三、財務委員会（六月十五日・成蹊クラブ）
- 四、育英奨学委員会（六月二十九日・成蹊クラブ）

##### ○支部会

- 一、東海支部会（五月十四日・名古屋タチソウ）
- 二、東北支部会（五月二十八日・仙台ニッカウイスキー）
- 三、九州支部会（六月三日・北九州市門司めかり荘）
- 四、関西支部会（六月十六日・大阪好文クラブ）
- 五、千葉支部会（七月八日・千葉ニューパークホテル）

〔注〕会議に付議されました議案はすべて可決承認されておりま  
す。なお予算決算等につきましては昭和四十六年度事業報告  
書並びに昭和四十七年度事業計画書（正会員に配付済）をご  
らん願います。

#### 二人 事

○成蹊学園評議員（三月六日・成蹊会理事会）。印新任

同窓生団体選任によるもの（成蹊学園寄付行為第十五条第二号）

朝川 澄夫（小 5）安藤建設副社長

今村 知雄（旧高10）伊豆急行常務取締役

。岩崎 寛弥（旧高23）三菱銀行

○成蹊学園理事（三月二十九日・成蹊学園評議員会）。印新任

。岩崎 寛弥（旧高23）前出

○成蹊学園評議員（昭和四十六年十一月二十六日・成蹊学園理事会）

理事会選任によるもの（成蹊学園寄付行為第十五条第三号）

青葉 翰於（実 8）日本経済調査協議会専務理事

赤星 平馬（中 8）小岩井農牧社長

朝倉 孝吉（旧高16）成蹊大学経済学部長

木梨 信彦（旧高2）日本鮭蟹告詰販売副社長

栗原美能留（中 4）成蹊中学・高等学校校長

河野 義克（旧高6）東京市政調査会理事

猿山 昌平（実 9）日本無線副社長

瀬木 庸介（政経1）博報堂社長

丹羽 孝三（専 3）成蹊学園常務理事

村上 藤太（中 5）王子製紙常任監査役

村上 正夫（旧高1）旭硝子専務取締役

河野 義克(旧高6) "  
 生野 專吉(旧高6) "  
 瀬木 庸介(政経1) "  
 高山 英華(旧高4) "  
 村上 藤太(中5) "  
 宗像 英二(旧高1) "

〔注〕成蹊学園理事・評議員は卒業生のみを記載した。  
 ○特別会員(教職員) (五月十一日・理事会)。印は卒業生  
 経済学部 佐々木克巳(教授)

工学部 高木新太郎・渡辺健一(専任講師)  
 江守一郎・富永大雄・高木正英(教授)  
 中西俊男・今井寅二郎(教授)

青木正喜・星 孝雄(助教)

文学部 中屋健次(教授)  
 法学部 河中二講(教授) 馬上 徳(専任講師)

高 校 小地利彦(専任講師)  
 中学校 滝沢七郎(専任講師)

小学校 石根要二(教諭)

特別学級 松尾文江・山田まり子(専任講師)

○会員異動(三月三十一日)

一、増加 一、七〇三名

経済学部 第三回四八〇名(成蹊高校卒業生と重複分六五名)  
 工学部 第七回 二三八名) " " 四六名)

文学部 第四回 三三三名) " " 二四名)  
 法学部 第三回 二九四名) " " 四一名)  
 高等学校 第二三回 三一五名(成蹊大学進学者を含む)  
 小学校 第五六回 五名(外部進学者)  
 その他 三九名

二、減少 二〇三名

高校と大学卒業生との重複分 一七六名  
 その他 六名  
 物故者 二一名

三、差引純増加数 一、五〇〇名

三 事業

○枯林志(二月十九日・巢鴨養和会)

成蹊学園創立者中村春二(枯林)先生の墓参りと追悼会

○成蹊会誌第三十五号発行(三月三十一日)

一二、〇〇〇部(四十七頁)

○成蹊会会員名簿発行(三月三十一日)

経済学部・工学部・文学部・法学部の卒業生名簿

○寄付

一、オーストラリア高校生招待(四月一日)

金一〇〇、〇〇〇円(成蹊高校)

二、成蹊大学第四回レガッタ(五月二十一日)

金五〇、〇〇〇円

三、成蹊大学禱祭(六月二十一日)

金五〇、〇〇〇円

○昭年四十七年度育英奨学生(六月二十九日・育英奨学委員会)

一、新規採用者 十五名

大学院 山口 正克(経修一年) 辻田 節子(文修一年)

経済学部 阿部 良一(経済四年) 三富 洋(経済二年)

工学部 萩原 裕(経済二年)

工学部 木村 幸雄(経工三年) 杉野 幸子(化学三年)

工学部 佐々木丈夫(化学三年) 春日 浩三(機械二年)

文学部 白石千衣子(英米三年) 小林 園子(日文四年)

文学部 白瀬 恭子(英米二年) 覚藤 弘子(文化三年)

法学部 坂本 真(法律三年) 藤崎 裕二(法律四年)

二、継続者 二十名

大学院 佐藤 正雄(経修二年) 石丸 琴弥(法修二年)

経済学部 石上 文雄(経済四年) 小池 学而(経済四年)

古田 彰徳(経済四年) 村塚 公紳(経済四年)

山田 芳和(経済四年) 町田 厚美(経済四年)

小山 真人(経済三年) 岡野 孝(経済三年)

工学部 河崎 雅治(経工三年)

文学部 増田えり子(英米三年) 宮本 昭子(英米三年)

法学部 江口徳治郎(法律四年) 小西 京子(政治四年)

清水 広平(法律四年) 田中 宏(法律四年)

森 博一(法律四年) 刀根 謙(政治四年)

山田 友信(政治四年)

三、昭和四十七年度育英奨学金

新規採用者(十五名) 九四八、〇〇〇円

継続者(二十名) 一、二四八、〇〇〇円

合計(三十五名) 二、一九六、〇〇〇円

四、育英奨学金貸与額

学部学生 一カ月 五、〇〇〇円

大学院学生 一カ月 七、〇〇〇円

五、貸与総額(昭和三十一年度～昭和四十六年度)

一〇、六二一、五〇〇円(うち返済金二、八六九、九〇〇円)

四 寄付金

○渡辺正介氏(旧高16回・昭和四十七年二月一日逝去)夫人より

(金) 三〇〇、〇〇〇円(育英奨学資金に繰入・三月四日)

○三上和一先生(特別会員・昭和四十七年四月九日逝去)夫人より

(金) 一〇、〇〇〇円(育英奨学資金に繰入・五月二十六日)

会 員 各 位

近頃各地で地番の変更や電話局番の新設が行われております。また現住所や勤務先の役職など異動があった場合は成蹊会本部までご一報願います。

〒180 武蔵野市吉祥寺北町三ノ三ノ一